

## ダマンスキー島の国境紛争：新たな資料と証拠

ドミトリー・リャブシュキン  
(タヴリーダ国立大学)

本稿では、1969年、ダマンスキー（珍宝）島での国境紛争におけるソ連軍と中国人民解放軍の損失に関する疑問点を再検証する。考察の根拠として、以下の未公開の文書を提示する：

1. 1969年3月2日に中国軍兵士がダマンスキー島に残した品目リスト
2. 1969年3月2日、中国軍兵士によるソ連領土内への軍事侵入に対する反撃の中で死亡した第2488部隊の兵士の遺体に関する検視報告書
3. 1969年3月にダマンスキー島での軍事衝突に加わった旧ソビエトの将校（国境警備兵1名、砲兵士官2名）の書簡3通

上記の新たに利用可能になった資料により、以下の問題点を改めて明らかにする。

- a) 中国人民解放軍兵士の犠牲者数。中国政府による公式声明と参戦したソビエト軍兵士による推計を比較する。ソビエト軍兵士は中国の兵士および予備兵が集結していたのを目にしており、その中に向かってカチューシャ・ロケットの流れをくむGRADロケット・システムで一斉砲撃をした。
- b) 検視に基づく1969年3月2日のソビエト国境警備兵の死亡状況。負傷者が至近距離で射殺されたことが確認されているが、マスメディアが報じた拷問疑惑は疑問視されている。
- c) 中央の公文書保管所で軍、外交、政治課題を対象として記録に残されている史実と、戦場にいた兵士の実体験との相違点。